

## 編集後記

---

新潟県立看護短期大学の閉学にあたり、その足跡を今年度の紀要第9巻と次年度の第10巻の2巻に渡る特集で記すことになりました。この紀要特集では、看護短大の単なる想いで集ではない、前向きな「看護短大の歩みを記録する」ことを心がけました。

そこで看護短大10年間の歩みに関与された方々にその主旨のもとに執筆を御願いました。初代学長の斎藤秀晃先生は、任半ばで逝かれたために、学長として残された文章の3編を紀要委員会を選び、当紀要に掲載させて頂きました。執筆を御願した元学科長の桑野先生や一之関事務局長さんを始め、諸先生方の文章からは、この上越での看護学生教育の熱い思いが伝わってきました。御執筆頂き深く感謝致します。

新潟県立看護短期大学10年の歴史と共に歩んだ紀要も、その役割を終えようとしています。関係施設に配布されたこれまでの当紀要掲載の論文・報告は、1つの地方都市の看護短大からみた「看護の分野の激動時代」を歴史に残すことになるのでしょうか。

平成16年(2004年)3月

紀要委員会委員長 杉 田 収(新潟県立看護大学教授)